

自然を大切にする

しぜんきょうせいしゃかい
自然共生社会

このページでは人と生物が未来にわたり、自然の恵みを得ることができる自然共生社会のすがたと、その社会をつくるために商社が取り組んでいる活動を学びます。

しぜんきょうせいしゃかい
自然共生社会を歩く



商社の取り組み 自然共生社会を実現(じつげん)するために

どじょうおせん かいぜん ○ 土壤汚染の防止・改善

農薬の大量使用、工場などから化学物質(かがくぶっつ)が流れ出ることによる土壤汚染(どじょうおせん)が、世界で問題となっています。土壤汚染は土だけでなく、その下にある地下水を通して、どこまでも広がる危険(きけん)があります。商社は、さまざまな方法・技術を使って、世界各地で土壤汚染の防止や汚染された土壌の再生に取り組んでいます。



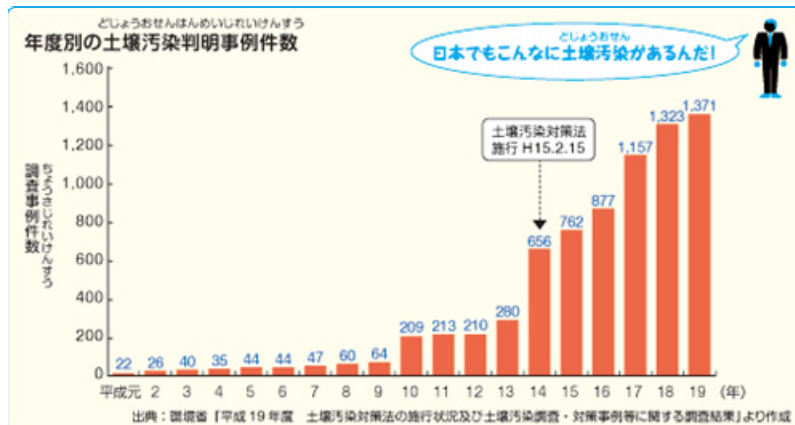
農業による土と水の汚染(おせん)が問題に

みなさんも着ることがある木綿のシャツ。その原料となる綿花(めんか)栽培(さいばい)にも、多くの農薬が使用されている場合があります。農薬の使用は収穫量(しゅうかくりょう)を増やしてくれますが、大量に使いすぎると、土壌(どじょう)や水質の汚染(おせん)を引き起こし、農作業を行う人の健康にも害をあたえます。農薬の使用をへらして土壤汚染を防ぎながら、農作業を行う人の生活が豊かになる方法が必要です。

日本でも深刻(しんこく)な土壤汚染(どじょうおせん)

土壤汚染(どじょうおせん)を引き起こすのは農薬だけではなく、工場などから出る鉛(なまり)や水銀などの金属、ダイオキシンなど、さまざまな化学物質(かがくぶっつ)が汚染の原因になります。日本にはこれまで田畑など農地の土壤汚染を防止する法律はありましたが、工場などがあつた土地の汚染を取りしめる法律はありませんでした。そこで2002年に「土壤汚染対策法(どじょうおせんたいさくほう)」がつくられ、土壤汚染の調査が行われた結果、多くの汚染が見つかっています。

■日本の土壤汚染(どじょうおせん)件数



(クリックで大きくなります)

商社が行っている「[土壤汚染\(どじょうおせん\)](#)の防止・改善(かいぜん)」

商社では、これまで農薬や殺虫剤(さっちゅうざい)が大量に使用されてきた[綿花\(めんか\)](#)の栽培(さいばい)を、無農薬に切りかえる[オーガニックコットン](#)事業(じぎょう)をインドなどで進めています。[オーガニックコットン](#)とは、3年以上農薬や[化学肥料\(かがくひりょう\)](#)を使用していない畑でつくられた[綿花](#)のことです。きちんと無農薬でつくられているかは専門(せんもん)の機関(きかん)がチェックして証明(しょうめい)するしくみになっています。農薬を使わないことで最初は収穫量(しゅうかくりょう)がへってしまうおそれがあるため、商社では通常より高い価格で農家から購入(こうにゅう)することを約束し、[オーガニックコットン](#)への切りかえを支援(しえん)しています。

日本国内では、汚染(おせん)された土壤(どじょう)や地下水を[微生物\(びせいぶつ\)](#)できれいにする「[バイオレメディエーション](#)」事業を行っています。これは化学物質(かがくぶっしつ)を食べてくれる[微生物](#)を使って、有害(ゆうがい)な化学物質を無害化(むがい)する技術で、汚(よご)れた土壤や地下水が生まれ変わるための新たな方法として期待されています。

世界各地で農業にも工業にも関わっている商社は、さまざまな方法・技術を使って[土壤汚染\(どじょうおせん\)](#)問題の解決(かいけつ)に取り組むことができます。



オーガニックコットンの栽培



ダイオキシンの無害化装置

▲ページの先頭へ